

トークセッションを開催しました！

昨年11月23日、本学創立330記念交流会館において、トークセッション「インクルーシブに生きよう～宮崎からワーク・ライフ・マネジメントを考える」を開催しました。

ゲストとして登壇したのは、川島 高之さん（NPO法人コヂカラ・ニッポン 代表）、船山 展丈さん（株式会社アラタナ 執行役員経営管理本部長）、木村 英二さん（宮崎県立都城工業高等学校 教諭）、膳 憲太さん（エフエム宮崎 アナウンサー）の4名。「宮崎はワーク・ライフ・バランスを実現するためにすばらしい環境が整っている」「一人ひとりがいろんな場面で役割を担うことで社会全体が活性化するのでは」など、各方面で活躍するゲストが発するさまざまな思いに、参加者の皆さんは熱心に耳を傾けていました。

最後はコーディネーターを務めた中川 美香さん（宮崎日日新聞社 論説委員）による「ダイバーシティという多様性を認め合うという視点に加え、一人ひとりが持つ多面性を大切にすることが重要。自分の中にある異分子を認めることで、他の人を認めることにもつながっていくのではないか」という総括で、約2時間のセッションは閉じられました。

トークセッション終了後は、川島さんと船山さん、木村さんと膳さんという組み合わせで話題を深めるクロストークも行いました。



トークセッションの様子



クロストークの様子

平成28年2月5日 第82号 / 発行 清花アテナ男女共同参画推進室

アテナかわらばん

教職員向けのセミナーを開催しています

本学では、教職員を対象とした各種セミナーも行っています。昨年11月22日には管理的立場にある教職員を対象としたセミナーを、12月7日には職員対象のセミナーを開催しました。今年度の職員向けセミナーは参加対象を係長級までの男性事務職員に限定。講師に長友まさ美さん（サンワード・ラボ株式会社代表取締役）を迎え、仕事に対するモチベーションやワーク・ライフ・バランスの大切さについてグループワークを交えながらレクチャーしていただきました。



職員向けセミナー講師の長友まさ美さん

看護休暇取得の対象が小学生まで拡大されました！

立春も過ぎ、暦の上では徐々に春へと近づいていますが、胃腸炎やインフルエンザなど感染性の高い病気の流行もしばらく続きそうです。

「子どもが体調を崩した！」というときなどに活用できるのが「看護休暇」です。看護休暇は未就学の子どもの看護等が取得事由となっていましたが、このほど本学規程が改正され、小学生の子どもについても休暇取得の対象となりました。従来は、国が定める「育児・介護休業法」に沿っていましたが、本学独自に取得要件が緩和され、利用しやすくなっています。

この看護休暇は、子どもの病気やケガで世話が必要となる場合はもちろん、予防接種や健康診断の場合でも取得が可能です。詳しくは、清花アテナ男女共同参画推進室や企画総務部人事課などへお問い合わせください。

ご存知ですか？

特別企画

学長に聞く

昨年10月に就任した池ノ上克学長に、男女共同参画推進に対する思いや、今後の展望を伺いました。

「昨年10月の学長就任後、精力的に学内を視察しておられるそうですね。」

「いろんな部署や現場を見て回るのには新鮮ですし、知らないこともたくさんあります。ずっと産婦人科医として働いてきましたから病院のことはよくわかりますが、それ以外のことは素人。素人なりに考えて質問したり、意見を伝えてみると、現場にいる方では気付かないことだったり、新しい取り組みのきっかけになったりするんですよ。」

「学長就任にあたり、新たに「女性活躍・人財育成担当理事」というポジションを設置されました。その意図をお聞かせください。」

「男女共同参画推進については、住吉元学長や菅沼前学長の頃から積み上げられた実績があります。社会的な要請が高まっているだけでなく、学内の取り組みをさらに具体化するためにもある程度権限を持って実行できるポジションが必要だと考えました。ただ、職名に「女性」が入っているからといって

て伊達紫先生にお願いしたわけではないんですよ。基準はあくまでも能力と実績と意欲。新たなポジションに一番適しているのが伊達先生だったということです。」

「本学の女性活躍や男女共同参画推進に向けてどのようなビジョンをお持ちでしょうか。」

「医療現場では、医師が行う医療行為を看護師がサポートするという考え方が主流でした。しかし、看護学という学問が生まれ発展する中で、行うべき仕事は医師と看護師は異なっていて、それぞれが補完することでより高い医療が実現するという考え方に方向がシフトしています。社会における関係もそれと同じで、一人ひとりがそれぞれの能力を生かしてより豊かなものが生まれてくるのではないのでしょうか。」

「しかし十分に能力を持ちながら、プロモーションがうまくいっていないケースもあります。きちんとがんばっている人が不利な取り扱いを受けないように対応することが非常に重要です。ピラミッド型の組織形態は効率的な組織運営に重要な形態ですが、能力を適切に評価してポジションを付与できる人事制度とうまく組み合わせることでさらに組織が活性化するのはないでしょうか。」

「多様な人材が活躍できる組織の実現

へ向けて、当室への期待と、教職員の皆さんへメッセージをお願います。

推進室では、さまざまな

切り口で学内の現場を見渡して、いろんな声を拾い上げてほしいですね。これまで見えていなかったものも見えるでしょうし、小さなことの積み重ねが次のステップにつながると思います。」

「私は、個人が豊かになるために働くという発想より、社会の一員としてしっかりと役割を果たすことで、おのずと自分の生活も豊かになり、生き方のクオリティも上がっていくものだろうと考えています。本学は宮崎のため存在する大学です。学生に対する教育はもちろん、地域のために何ができるかということを考えて、地域活性化の拠点としての役割を果たしていかねければなりません。様々な職種の違いはありますが、教職員の皆さんそれぞれの立場でぜひ誇りを持って働いていただきたいと思います。」



(平成28年1月14日、学長室にて)

◇あてなのらくがき◇このコーナーでは推進室で起こった出来事や話題を少しだけ紹介します

今年4月には、いよいよ新しく地域資源創成学部が設置されますね!学内でもさまざまな方が準備を進めておられると思いますが...それに伴い、推進室のオフィスも移転することになりました。同じ建物、同じフロアですが、今までよりも少しゆったりとした空間で皆さんをお迎えできることになりそうです。詳細は次号でお知らせします!

宮大ハッピースローガン

隣の人の気持ち、考えてみませんか? 「ありがとう」の気持ち、言葉にしてみませんか?

忙しい毎日でも、ほんの少しだけ相手を思いやる気持ちを持つだけで、ぐんと快適になります